

平成23年度CSI委託事業報告交流会
Session1

学術機関リポジトリ構築連携支援事業の 7年を振り返る

2012年6月12日

国立情報学研究所
学術基盤推進部長
安達淳

1. 事業の概要
2. 事業の成果
3. 課題
4. まとめと今後の方向性

1. 事業の概要

最先端学術情報基盤（CSI）と学術コンテンツ基盤

■ CSI (Cyber Science Infrastructure)

- 我が国の大学等の研究機関が有しているコンピュータ等の設備、基盤的ソフトウェア、コンテンツ及びデータベース、人材、研究グループそのものを超高速ネットワークの上で共有する「最先端学術情報基盤」

■ 学術コンテンツ基盤

- 大学等の教育・研究機関の構成員（研究者・学生）が必要とする学術コンテンツを、学術コミュニティと連携して確保・形成し、付加価値を付けて提供することで、教育・研究に貢献する



学術コンテンツ基盤：学術コンテンツの確保と提供

提供

NIIの提供する学術コンテンツ

論文情報

機関発信情報

図書・雑誌情報

専門学術情報

研究情報



海外電子ジャーナル等の本文情報
370万件
人文系電子コレクション
19万件

論文情報のメタデータ・リンク情報
1,530万件

機関リポジトリ搭載の学術情報のメタデータ・リンク情報
130万件

図書・雑誌の書誌・所在情報
書誌1,000万件
所蔵1.2億件

図書・雑誌の書誌情報他
2,500万件

専門学術情報資源(データベース)
218万件

科学研究費補助金の研究課題・成果情報
67万件

アーカイブ

データ統合

学協会誌掲載論文の本文情報
380万件

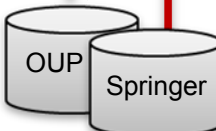
電子化

収集

データ付加

受入

電子化



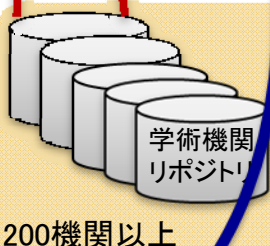
学術出版社



他機関のDBサービス



学協会



200機関以上



収集

大学・学術機関



1,200機関以上



* データ件数は
平成24年3月末現在

背景：学術情報の発信に関する我が国大学の課題

- 我が国の学術情報発信の強化，ならびにオープンアクセスの推進方策の一環として，大学等と連携し，機関リポジトリの構築を一層促進
- 自機関でのリポジトリ構築が困難な中小規模機関等に向けて，クラウド型（共用）リポジトリ環境を提供することにより，機関リポジトリの更なる普及促進を図る
- 学協会の情報発信支援事業（SPARC Japan, NII-ELS）の継続的实施と拡充等，推進方策の検討
- 我が国の学協会が刊行する学術雑誌を国際競争力を有するものとして育成する観点から、オープンアクセスに対応した学術雑誌についてパイロット事業的に重点支援を行う仕組みを設けることも考えられる

（出典）「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について（審議のまとめ）」

（平成21年7月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会）

機関リポジトリ (Institutional Repositories) とは

大学等の教育研究機関が、その知的生産物を電子的形態で収集し、保存し、無料で発信するために設置する電子アーカイブシステム

(収録対象)

- 学術論文 (学術雑誌論文, 紀要論文, 学位論文)
- その他, テクニカルレポート, 会議発表論文, 教材・データなど

海外の学術雑誌に掲載された学術論文も収録することでオープンアクセス促進の役割も果たしている

【NIIの役割】

- 機関リポジトリの構築支援
- 機関リポジトリの連携支援
- 一括検索機能の提供

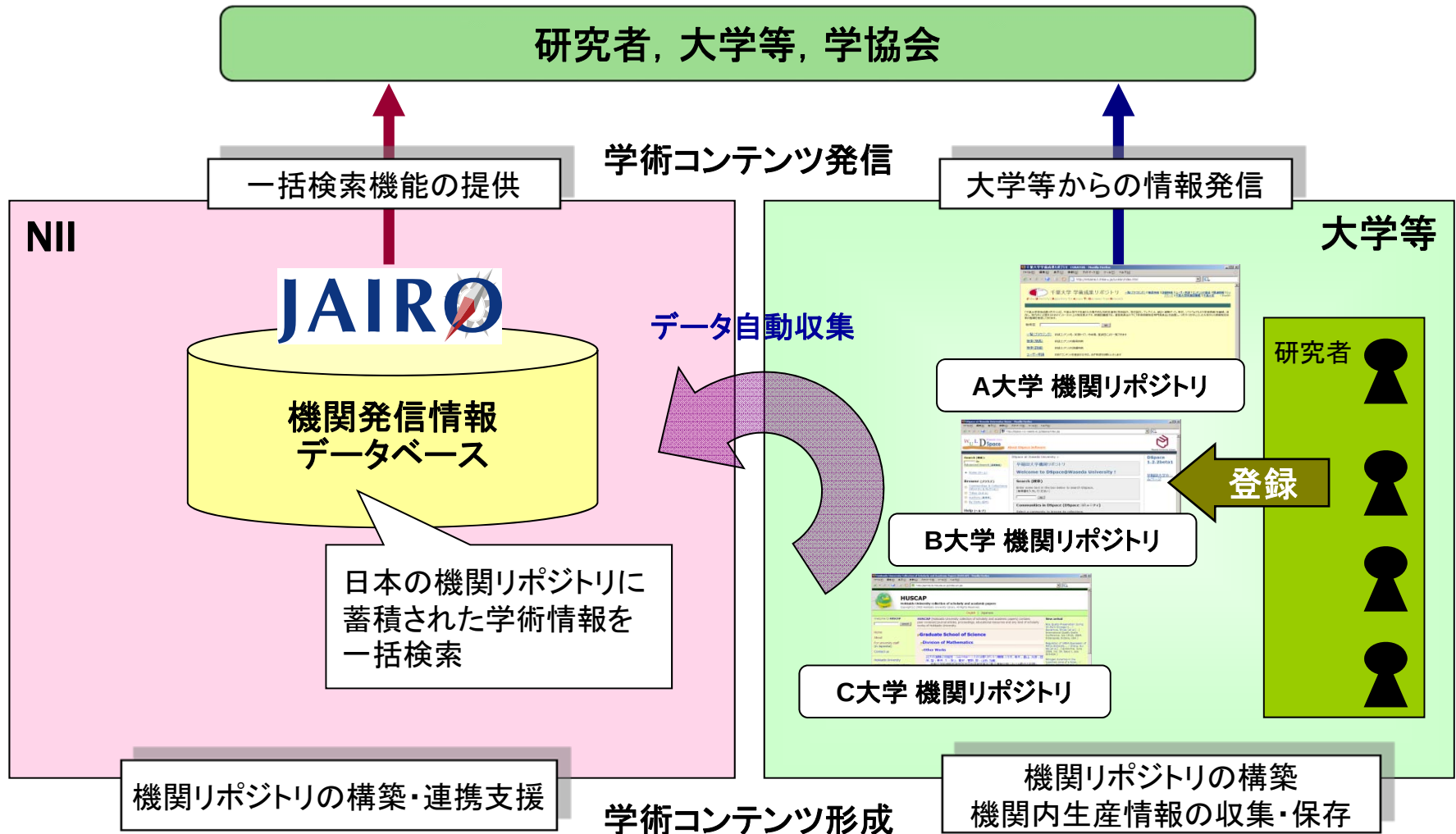
【大学等の役割】

- 機関リポジトリの構築
- 機関内生産情報の収集・保存
- 大学等からの情報発信

連携・協力

大学との連携による学術情報形成・発信

NIIは各機関リポジトリのデータを収集し発信



日本における学術情報流通の動向

日本語の論文

英語の論文

CiNii

IFなし

日本の学会による
日本語のジャーナル

第3期からのSPARC Japan
(SCOAP3, arXiv)

73,000論文/年
(世界の8.1%)

日本の研究者
／
論文著者

国際学術雑誌論文
国際会議発表論文

IFあり

機関リポジトリ

日本の学会による
英文ジャーナル

22,000論文/年

Gray literature

学位論文, 紀要論文,
テクニカルレポート

第2期までの
SPARC Japan

機関リポジトリの二つの役割

➤ OAとセルフアーカイブ

研究者コミュニティへの貢献

- E-journalとして収録されている論文のアーカイブ
- 日本は世界の約8.1%の割合で貢献しなければならない
- STMでは、業績データベースや科研の申請書に記載するような成果論文

➤ 大学の生産する情報の公開

社会へのアカウンタビリティ

- 学位論文
- 紀要
- 研究に付随する電子データ

□ 機関リポジトリ構築連携支援事業

➤ CSI委託事業 (CSI: Cyber Science Infrastructure/最先端学術情報基盤)

- 第1期(H17-19), 第2期(H20-21)
 - 対象: 大学、短大、高専→大学共同利用機関追加(第2期～)
 - 領域1(機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充)
 - 領域2(リポジトリ相互の連携による新たなサービスの構築)
- 第3期(H22-24)
 - 領域1(コンテンツ構築支援): 機関数: 31
 - 領域2(先導的プロジェクト支援): プロジェクト数: 8
 - 領域3(学術情報流通コミュニティ活動支援): プロジェクト数: 4

※H23年度の委託事業数

➤ NIIが行っている機関リポジトリ関係のサービス

- メタデータフォーマット(junii2)
- 学術機関リポジトリポータル(JAIRO)
- CiNiiから機関リポジトリへのシステム連携
- 機関リポジトリ構築ソフト(WEKO)

□ 今年度は、CSI第3期委託事業の最終年度

区分	内容
第1期(H17-19)	- 対象:大学、短大、高専 - 領域1(機関リポジトリ構築・運用事業) - 領域2(先駆的な研究開発事業)
第2期(H20-21)	- 対象:大学、短大、高専、大学共同利用機関 - 領域1(機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充) - 領域2(リポジトリ相互の連携による新たなサービスの構築)
第3期(H22-24)	- 領域1(コンテンツ構築支援) *システム構築経費は支援対象外 - 領域2(先導的プロジェクト支援) - 領域3(学術情報流通コミュニティ活動支援)

委託事業数の推移

□ 第1期(H17-19), 第2期(H20-21)

- ・ 領域1(機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充)
- ・ 領域2(リポジトリ相互の連携による新たなサービスの構築)

□ 第3期(H22-24)

- ・ 領域1(コンテンツ構築支援)
- ・ 領域2(先導的プロジェクト支援)
- ・ 領域3(学術情報流通コミュニティ活動支援)

区分	第1期			第2期		第3期	
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
領域1	19	57	70	68	74	24	31
領域2	2	22	14	21	21	8	8
領域3	-	-	-	-	-	5	4

領域1の委託機関内訳数の推移

年度	委託 機関数	連携 機関有	内訳種別			
			国立 大学	公立 大学	私立 大学	その他
H17	19	－	17	－	2	－
H18	57	－	47	－	10	－
H19	70	－	57	－	13	－
H20	68	4	54	2	12	－
H21	74	4	54	5	13	2
H22	24	5	8	4	10	2
H23	31	7	10	4	15	2

* 委託機関数全体の減少は、国立大学の委託数減が主な要因

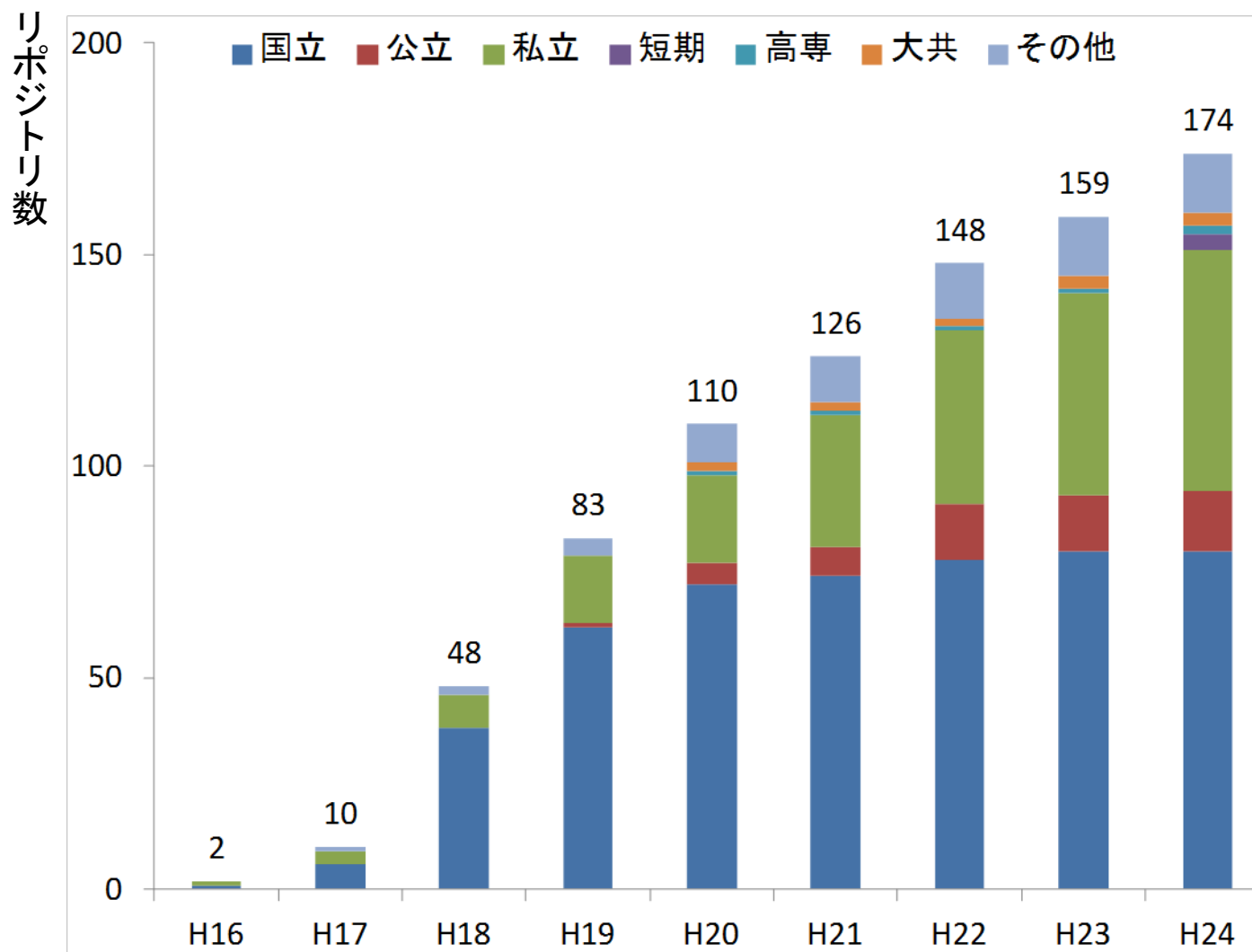
委託事業の翌年度に、受託機関からの成果報告を主目的として報告交流会を開催

年度	参加者数	開催日数
H17	63名	1
H18	181名	1
H19	170名	2
H20	290名	2
H21	261名	1
H22	219名	2

2. 事業の成果

機関リポジトリ数の推移

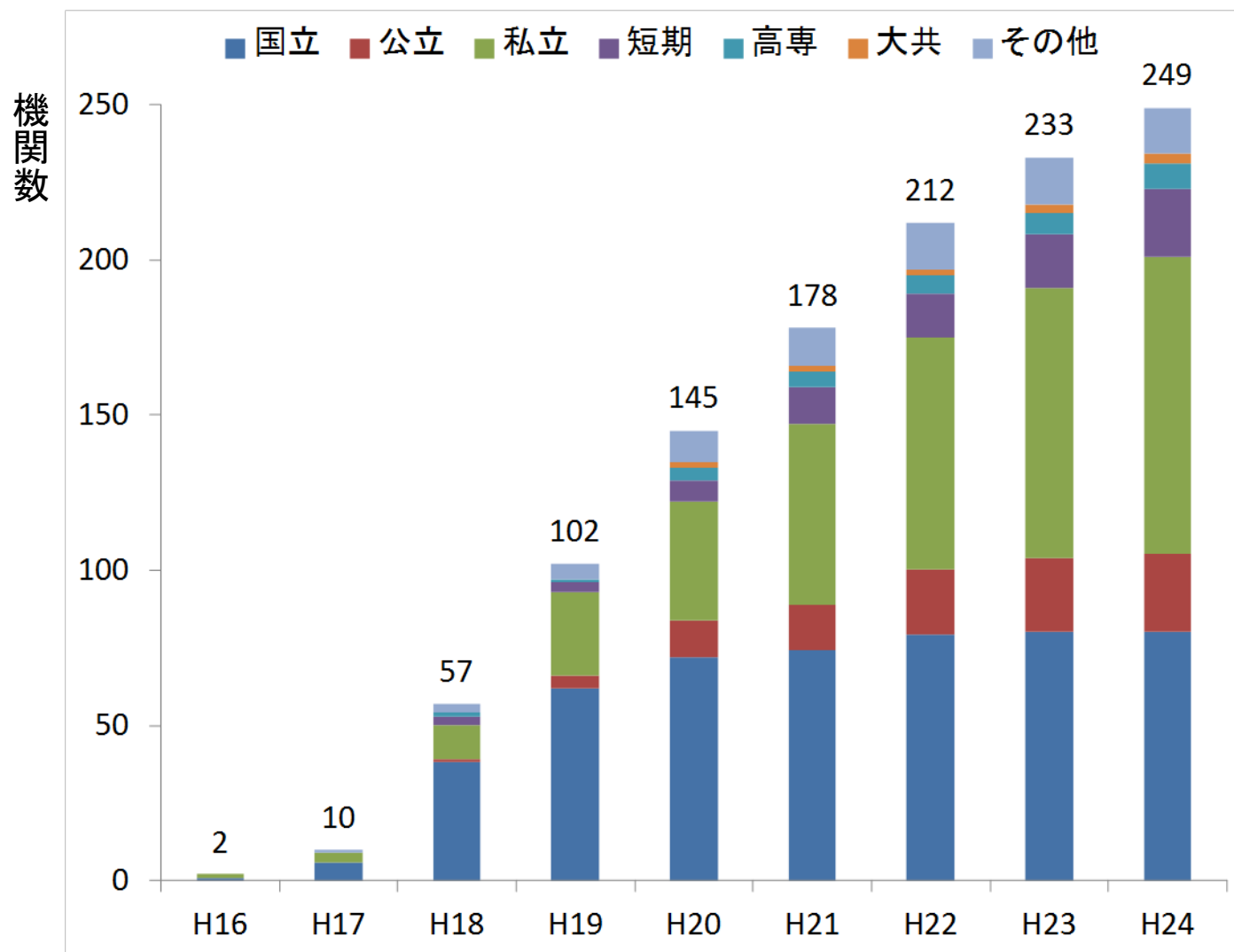
大学等との連携により機関リポジトリの構築を推進



※ 各年度3月末時点の数値(H24年度は5月時点)

機関リポジトリ構築機関数の推移

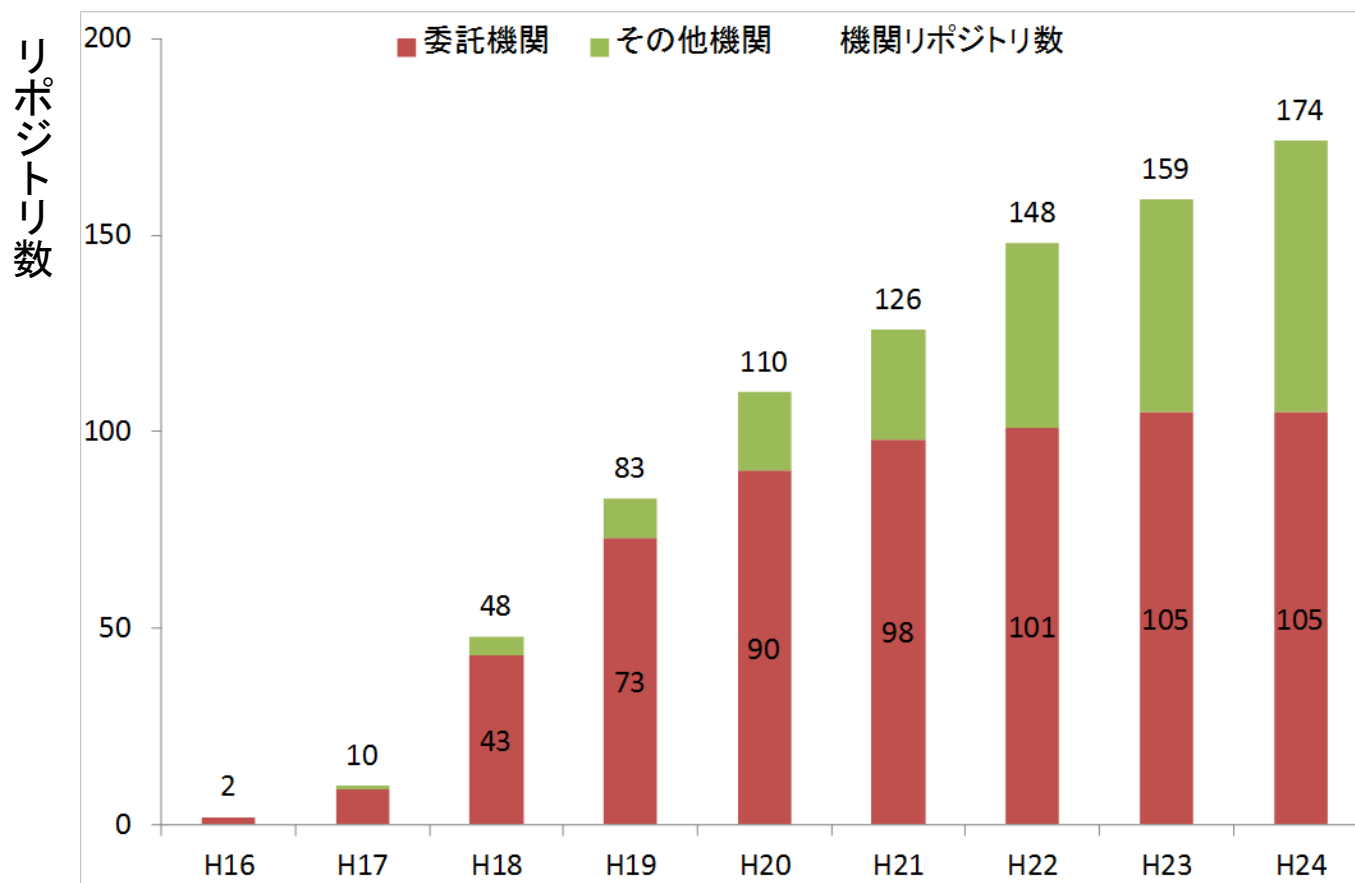
地域共同リポジトリの立ち上げもあり、機関リポジトリ構築機関も拡大



※ 各年度3月末時点の数値(H24年度は5月時点)

委託事業受託機関による機関リポジトリ数の割合

- 委託事業の効果もあり、着実に機関リポジトリ数は伸びてきたといえる。
- 昨今は、委託事業によらない構築例が増加している。



※ 各年度3月末時点の数値(H24年度は5月時点)

地域共同リポジトリ

地域単位での共同リポジトリも進展

地域共同リポジトリの例

ゆうキャンパスリポジトリ(山形)

群馬県地域共同リポジトリ AKAGI

学術情報発信システム SUCRA(埼玉)

愛媛地区共同リポジトリ

岡山共同リポジトリ

ひろさき地域共同リポジトリ

新潟県地域共同リポジトリ

福井県地域共同リポジトリ

広島県大学共同リポジトリ

山口県大学共同リポジトリ

鹿児島県学術共同リポジトリ

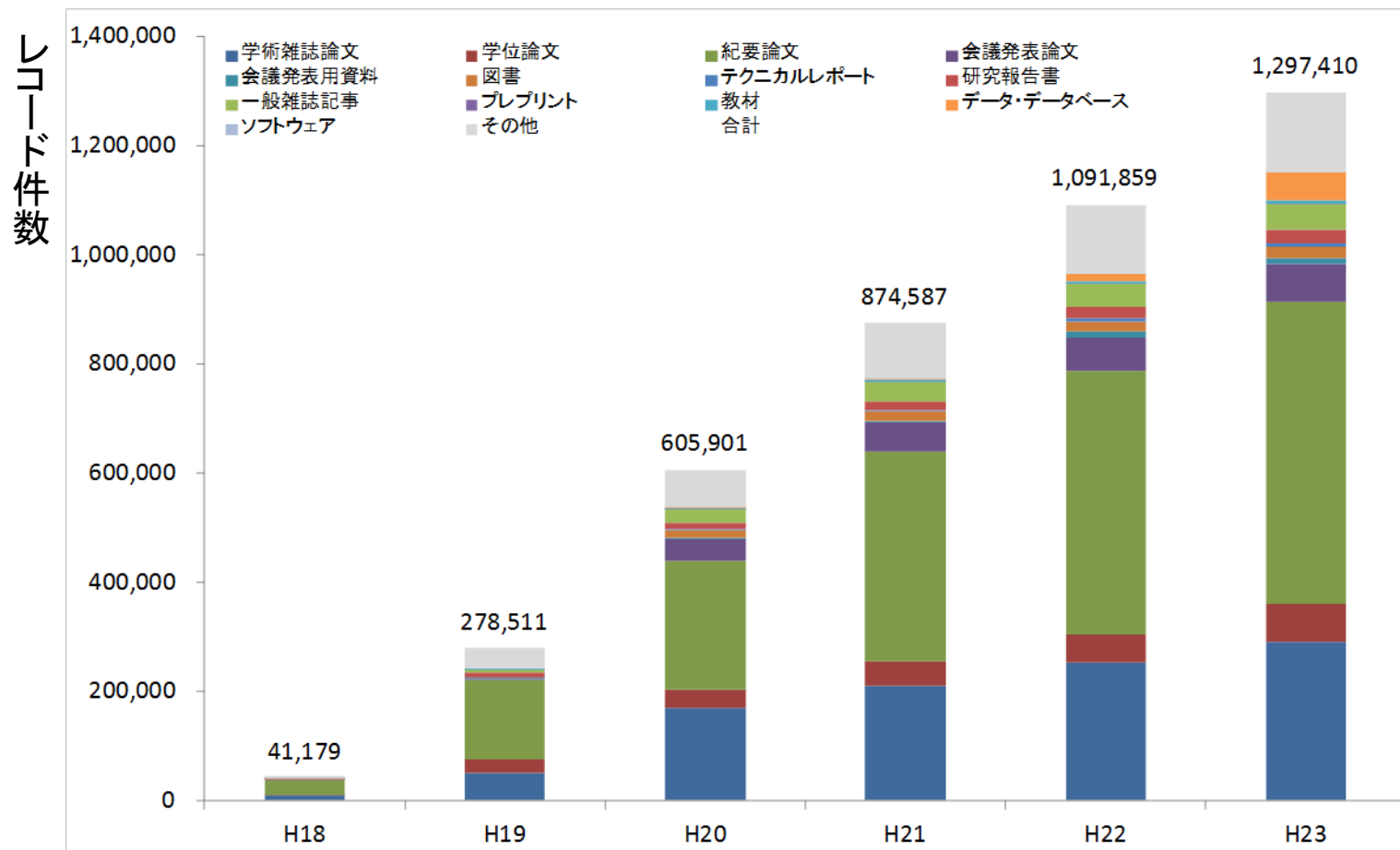
沖縄地域学リポジトリ

地域共同リポジトリ参加機関の内訳

種別	機関数
国 立	8
公 立	15
私 立	50
短 期	20
高 専	8
その他	11
合 計	112

※ H24年5月時点

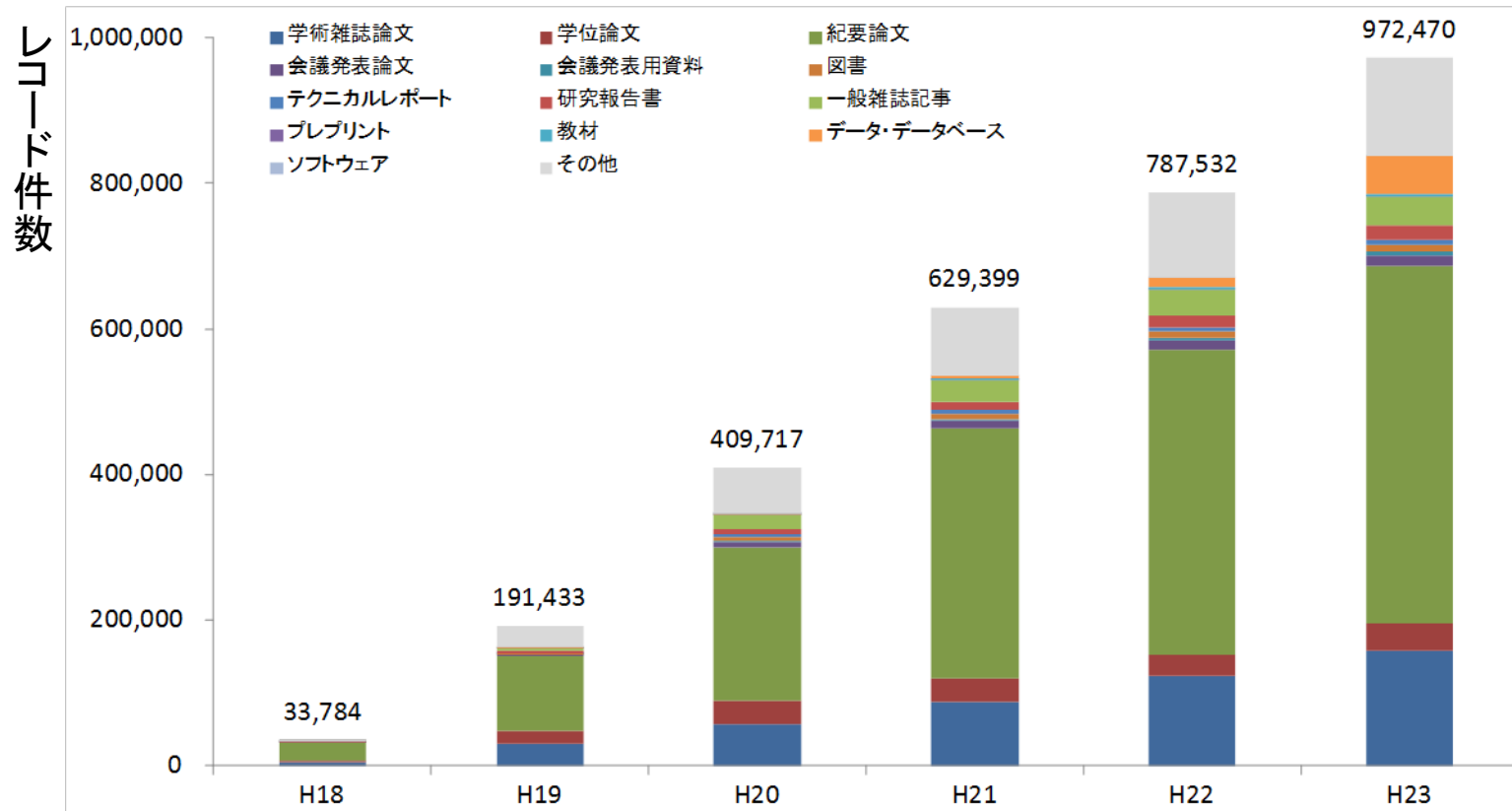
コンテンツ登録数の推移



年度	学術雑誌論文	%	学位論文	%	紀要論文	%	他	%	計	%
H18	9,608	23%	738	2%	27,646	67%	3,187	8%	41,179	100%
H19	49,536	18%	26,095	9%	146,277	53%	56,603	20%	278,511	100%
H20	170,090	28%	33,862	6%	234,375	39%	167,574	28%	605,901	100%
H21	209,833	24%	44,252	5%	384,449	44%	236,053	27%	874,587	100%
H22	251,744	23%	52,640	5%	482,296	44%	305,179	28%	1,091,859	100%
H23	290,325	22%	70,176	5%	552,909	43%	384,000	30%	1,297,410	100%

※ 各年度3月末時点の数値

本文ありコンテンツ登録数の推移



年度	学術雑誌論文	%	学位論文	%	紀要論文	%	他	%	計	%
H18	4,916	15%	667	2%	25,834	76%	2,367	7%	33,784	100%
H19	30,597	16%	16,628	9%	103,289	54%	40,919	21%	191,433	100%
H20	56,251	14%	32,307	8%	211,457	52%	109,702	27%	409,717	100%
H21	87,748	14%	32,588	5%	343,543	55%	165,520	26%	629,399	100%
H22	123,434	16%	28,303	4%	419,569	53%	216,226	27%	787,532	100%
H23	157,705	16%	38,017	4%	491,247	51%	285,501	29%	972,470	100%

※ 各年度3月末時点の数値

JAIR (Japanese Institutional Repositories Online)

国内の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報を横断的に検索できるサービス

* コンテンツ数: 約135万件 (本文約97万件)

お知らせ > JAIRについて > 利用方法 > お問い合わせ > English

JAIR
Japanese Institutional Repositories Online

2012/05/24 現在 204機関 1,357,353件

お知らせ

- ・学術機関リポジトリポータルJAIRは日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報を横断的に検索できます。→詳細
- ・トップページにJAIR利用統計へのリンクを追加しました。(2010/11/30)
- ・ノーベル化学賞受賞関連論文がJAIRに掲載されました。(2010/10/26)
- ・検索対象コンテンツ数が100万件を突破しました。100万件目は東北大学機関リポジトリTOURのこの論文でした。(2010/09/15)

簡易検索 | 詳細検索

検索

10件ずつ表示 | 出版年: 新しい順に表示 | すべて 本文あり

資料の種別を指定する

すべてにチェック すべてチェックをはずす

☒ 学術雑誌論文 (298,376 件)	☒ 学位論文 (71,934 件)
☒ 紀要論文 (573,166 件)	☒ 会議発表論文 (82,644 件)
☒ 会議発表要約資料 (10,829 件)	☒ 図書 (21,128 件)
☒ テクニカルレポート (12,177 件)	☒ 研究報告書 (23,880 件)
☒ 一般雑誌記事 (54,682 件)	☒ プレプリント (353 件)
☒ 教材 (8,310 件)	☒ データデータベース (52,658 件)
☒ ソフトウェア (25 件)	☒ その他 (147,191 件)

機関を指定する 一覧表示

【機関を指定する】タブをクリックすると機関の一覧を表示/非表示することができます。

JAIRのコンテンツについて

JAIR利用統計

よく利用されるコンテンツ

鈴木 翔, 須藤 康介, 荒川 智美, 寺田 悠希, 渋谷 功太郎
恋人の有無が中学生の意識に与える影響: 「恋人のでやすさ」に着目して
東京大学大学院教育学研究科紀要, 51, 2012-03-10

Homma, Tetsushi
A Generalized User-Revenue Model of Financial Firms under Dynamic Uncertainty-Equity Capital, Risk Adjustment, and the Conjectural

IRDB (Institutional Repositories DataBase)

学術機関リポジトリの詳細情報及びコンテンツ内容のコンテンツ種別、機関別等の統計分析情報を提供するサービス

IRDBコンテンツ分析

NII Institutional Repositories DataBase Contents Analysis

IRDBコンテンツ分析について ヘルプ お知らせ
お問い合わせ English

機関名等から検索: 検索

HOME 機関名一覧から探す

IRDB (Institutional Repositories DataBase: 学術機関リポジトリデータベース) コンテンツ分析システムでは、各機関の詳細情報、コンテンツ内容の統計分析情報を提供しています。

詳細

分析対象:

IRDBハーベスト機関リポジトリ数: 203, コンテンツ数 全体: 1,348,649件、本文あり: 988,566件 (2012/04/30)

コンテンツ増減

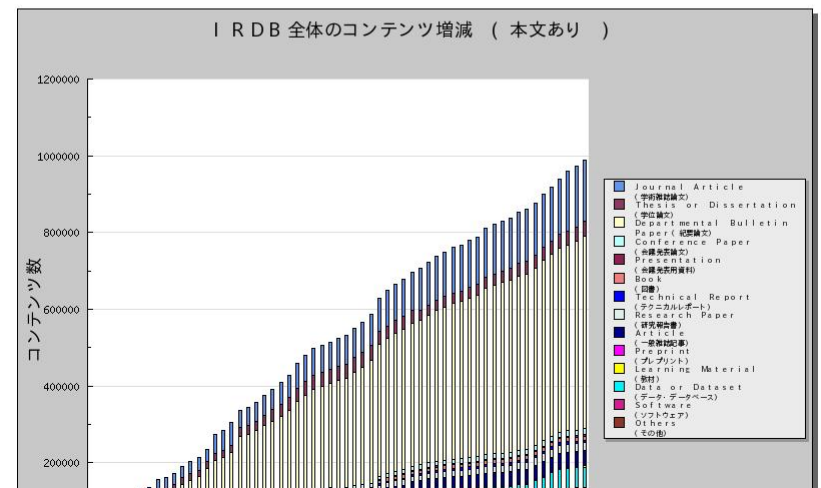
すべて 表示する年度を選択できます。本文あり 本文ありと全体から選択できます。

最新月 [2012/4] のコンテンツ数 (本文あり)

TSVダウンロード

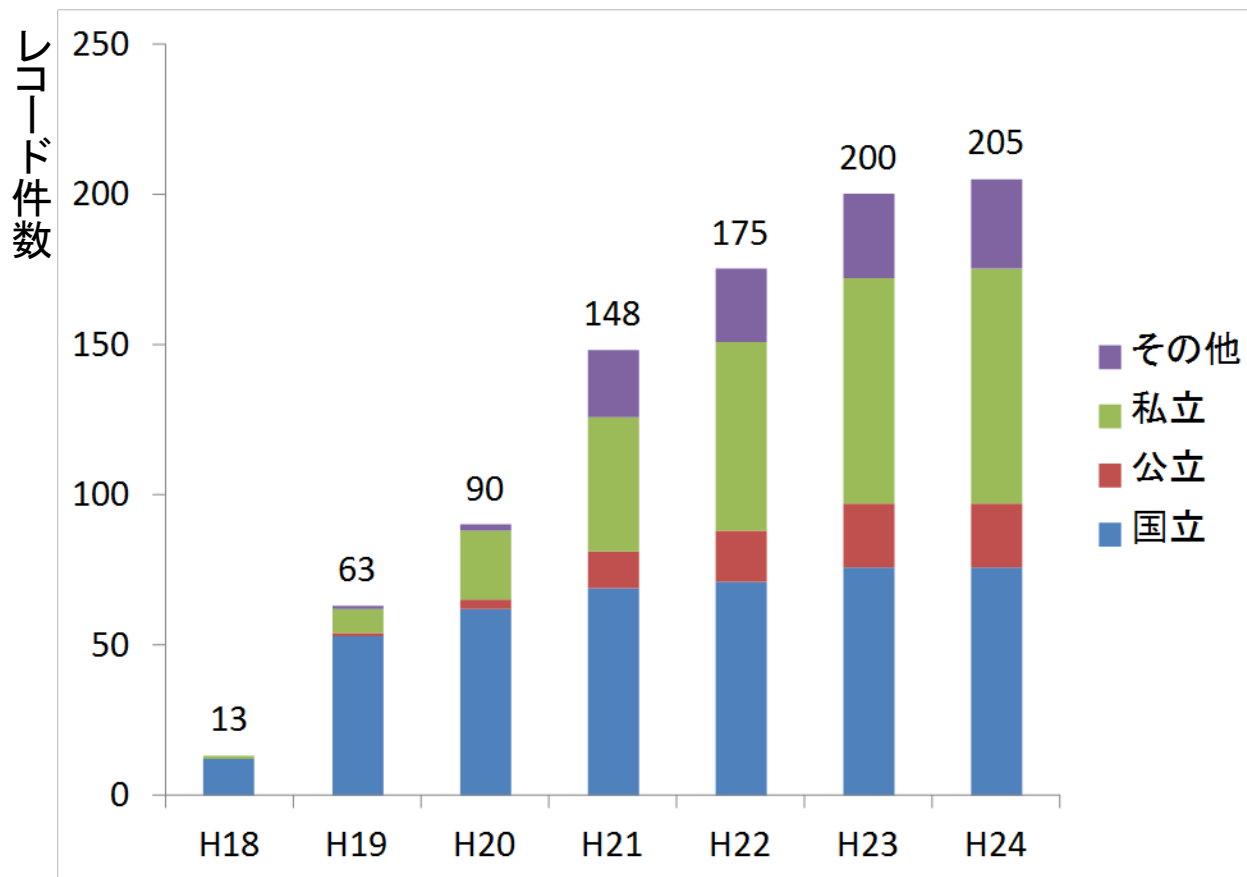
過去のコンテンツ数 (本文あり)

TSVダウンロード



JAIRO/IRDB対象機関数の推移

機関リポジトリ構築後は、JAIRO/IRDBによる
ハーベストの申し込みをお願いします



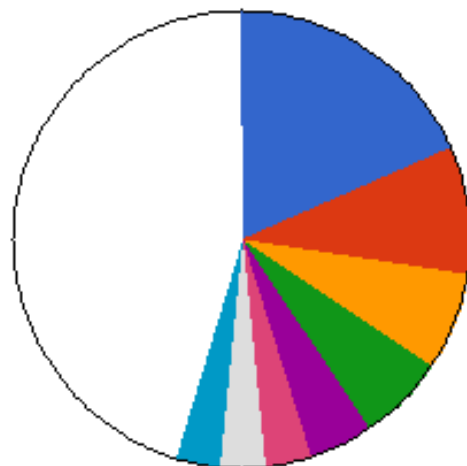
※ 各年度3月時点の数値(H24は5月時点)

□ 世界で構築されている機関リポジトリ: 2,183

(* OpenDOARより)

- この1年で世界で約300増加
- 日本は137機関が登録済→世界第4位に位置している

Proportion of Repositories by Country
Worldwide



United States	(396 = 18%)
United Kingdom	(208 = 10%)
Germany	(151 = 7%)
Japan	(136 = 6%)
Spain	(92 = 4%)
Poland	(78 = 4%)
Italy	(69 = 3%)
France	(65 = 3%)
[92 Others]	(988 = 45%)

Total = 2183 repositories

実際の構築数は
世界第2位
249機関(H24.5)

OpenDOAR 11-May-2012

第1期における領域2委託事業一覧

応募プロジェクト数:30 採択プロジェクト数: 22

No	区分	テーマ	主担当
1	リンクリゾルバ対応	リンクリゾルバ対応システムの開発	北海道大学
2	評価	機関リポジトリの評価システム	千葉大学
3	著作権	著作権ポリシー共有機能	筑波大学
4	リポジトリシステムの開発	リポジトリ登録・管理システムの開発	東京大学
5		T2R2 システムの開発	東京工業大学
6		OneWriting & MultiOutput システムの開発	お茶の水女子大学
7		学内既存データベース及び認証基盤システムとの連携	大阪大学
8	オープンソースの活用と普及	機関リポジトリコミュニティの活性化	北海道大学
9		XooNlps Library モジュールの開発と普及	慶應義塾大学
10	業績データベースとの連携	業績データベースとの連携	金沢大学
11	検索システムの開発	主題マップによるナビゲーション	北海道大学
12		学内の各種データベースのゆるやかな結合による統合検索	九州大学
13	電子出版	電子出版システム(編集査読システム)の開発	早稲田大学
14	メタデータ関連	多様なタイプの情報資源の蓄積・交換の推進	名古屋大学
15	教育支援	教育成果に重点をおいたコンテンツ作成	東北大学
16		学習・教育支援のための統合的情報システム環境の開発	三重大学
17	サブジェクトリポジトリ	教育系サブジェクトリポジトリとしての展開	東京学芸大学
18		平和学リポジトリの構築	広島大学
19		数学文献アーカイブの構築と公開(数理解析研究所講究録)	京都大学
20	その他	研究コミュニティ創出支援	千葉大学
21		典拠ディレクトリシステムの構築	名古屋大学
22		国際的協力(国際シンポジウムの企画)	千葉大学

第2期における領域2委託事業一覧

応募プロジェクト数:26 採択プロジェクト数: 21

N o	テーマ	プロジェクト名	代表機関
1	発信力強化 のための技術開発	学術機関リポジトリをプラットフォームとする電子出版システムの開発	名古屋大学
2		リポジトリと電子出版の連携モデルを確立するための実験開発	早稲田大学
3		機関リポジトリ上の情報資源の発見及びアクセス性の向上のための調査研究開発	北海道大学
4		学術機関リポジトリのためのシステム連携用ツールの開発	名古屋大学
5		XooNlpsを基盤とした新しいリポジトリシステムへの取組	慶應義塾大学
6		研究者情報システム連携プログラム	金沢大学
7		つくばサイエンスリポジトリにおけるコンテンツの構造化と利用価値の向上	筑波大学
8		双方向型医学系サブジェクトリポジトリ技術基盤の形成	札幌医科大学
9		遺跡資料リポジトリの構築: 中国5県域から広域連携へ	島根大学
10		共同リポジトリ: モデルの構築と普及	広島大学
11		教育系サブジェクトリポジトリとしての展開	東京学芸大学
12	機関リポジトリの持続性 の確保や価値の向上に 関する研究	機関リポジトリコミュニティの活性化	北海道大学
13		ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善の枠組みの形成	千葉大学
14		オープン・アクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト(SCPJ2)	筑波大学
15		持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造	九州大学
16		機関リポジトリ評価のための基盤構築	千葉大学
17		機関リポジトリ推進のための視認度評価分析システムの開発	信州大学
18		学術情報資源共有のための図書館間文献デリバリーサービスを機関リポジトリ構築によって代替するための教員・図書館連携方式の開発	小樽商科大学
19		研究者コミュニティが機関リポジトリに深く関わるための入出力活性化	九州大学
20		機関リポジトリへの登録が学術文献流通に対して及ぼす効果についての定量的解析のための文献蓄積及びデータ整理	北海道大学
21		eサイエンスと機関リポジトリの連携の可能性についての調査・研究	千葉大学

第3期における領域2委託事業一覧

□ 領域2: 先導的プロジェクト支援(テーマ別募集・採択)

- ・ 応募プロジェクト数: 19
- ・ 採択プロジェクト数: 8

A. コンテンツ拡充に関するもの

No	テーマ名「プロジェクト名」	代表機関
A-1	博士論文発信先導プロジェクト 「博士論文発信支援パッケージ開発プロジェクト」	東京大学
A-2	科研費成果発信先導プロジェクト	応募・採択なし
A-3	学術雑誌論文: セルフアーカイブを効果的に促進する仕組み 「文献自動収集・登録ワークフローシステムの開発」	九州大学
A-4	その他のテーマ	採択なし

B. 機関リポジトリ高度化に関するもの

No	テーマ名「プロジェクト名」	代表機関
B-1	機関リポジトリ構築ソフトウェアの開発と提供 「新XooNlps の開発/Library モジュールの開発と普及」	慶應義塾大学
B-2	論文等とデータを連携するeScienceインフラの開発と提供	応募・採択なし
B-3	ポータルサイトとしての分野別リポジトリ構築とメタデータ標準化 「全国遺跡資料リポジトリ」	島根大学
B-4	永続識別子(組織, 著者, コンテンツ)の調査研究と実装実験 「オープンアクセス環境下における同定機能導入のための恒久識別子実証実験」	金沢大学
B-5	機関リポジトリ評価の基盤構築と評価 「機関リポジトリアウトプット評価の標準化と高度化」	千葉大学
B-6	電子出版, 学内学会・大学出版との連携と評価 「クラウド環境における電子出版・リポジトリ連携実証実験」	名古屋大学
B-7	リポジトリを使った図書館業務・サービスの再構築を促す実践と評価	採択なし
B-8	その他のテーマ 「数学ポータル構築」	北海道大学

第3期における領域3委託事業一覧

□ 領域3: 学術情報流通コミュニティ活動支援

- ・ H22応募プロジェクト数: 9
- ・ H22採択プロジェクト数: 5 (H23は4 [プロジェクト統合のため])

No	プロジェクト名	代表機関
1	「機関リポジトリコミュニティ活性化のための情報共有」	北海道大学
2	「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト(SCPJ プロジェクト3)」	筑波大学
3	「機関リポジトリ担当者の人材育成」	広島大学
4	「近畿における機関リポジトリコミュニティ形成の支援」	大阪大学

3. 課題

機関リポジトリの国内設置率

現状、国立はほぼ構築済みだが、公立は2割強、私立は1割強程度

項目	計	内訳		
		国立	公立	私立
A) 機関リポジトリ公開機関数 ※1	201	80	25	96
B) 大学数 ※2	780	86	95	599
設置率 (A÷B)	25.77%	93.02%	26.32%	16.03%

※1 申請ベースのため、カウント漏れの可能性あり

※2 文部科学省「H23年度学校基本調査」より

共用リポジトリ(JAIRO Cloud)

□ 事業内容

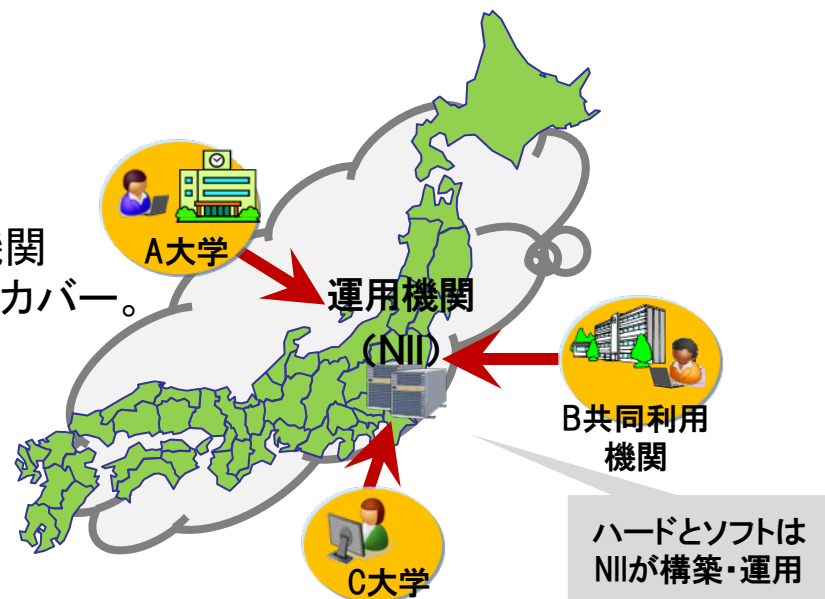
- 機関リポジトリの自力構築が困難な機関向けに、リポジトリのシステム環境を提供し、運用を支援する。
 - NIIが開発した機関リポジトリソフトウェア「WEKO(ウェコ)」をベースに、共用リポジトリのシステム環境を構築

□ サービス対象

- 日本国内の大学、短期大学、高等専門学校、大学共同利用機関のうち、当面は次の機関を対象とする。
 - 新たに機関リポジトリを構築する機関
 - 地域共同リポジトリを構築する機関

□ 事業の目標

- 平成27年度までに200機関の新規構築
 - 既構築機関(約200機関)と併せて400機関となり、博士後期課程を持つ大学はほぼカバー。



共用リポジトリ(JAIRO Cloud)の現状

- 経緯

年月	事項
平成23年9月～10月	共用リポジトリ・サービス説明会の開催(全国6会場)
平成23年11月	参加機関の募集開始
平成24年1月	共用リポジトリ・システム講習会の開催(全国3会場)
平成24年4月～	正式サービス開始

- 申請機関数

申請数	内訳				公開機関数
	私立	公立	短期	その他	
70	56	5	5	4	14

※平成24年5月末現在(申請は随時受付中)

National Institute of Informatics

機関リポジトリのコンテンツ捕捉率(試算)

コンテンツ種別	根拠となる件数	補足率
紀要論文	総件数 : 約102万件 ¹⁾ 機関リポジトリ収録件数 ²⁾ : 約47万件	46.3%
学位論文	総件数 : 約56万件 ³⁾ 機関リポジトリ収録件数 ²⁾ : 約3万5千件	6.2%
学術雑誌論文	英文論文数 ⁴⁾ : Web of Scienceの収録論文(2009年出版分)のうち、著者の 所属機関が日本の論文 : 約7万9千件 機関リポジトリ収録件数 ⁴⁾ : 約2,900件	3.7%

(注)

- 1) CiNii(NII-ELS)収録の紀要論文数
- 2) JAIROのデータ収録件数(本文あり), 2011年12月末時点
- 3) NII-DBR「博士論文書誌データベース」収録論文数
- 4) 尾城孝一. オープンアクセス序論: 概況報告. シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」
2010年12月10日. http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2010/pdf/7/1_OA_introduction_final.pdf

コンテンツ登録の現状と制度

コンテンツ種別	現 状	制 度
紀要論文	・現状でも高い捕捉率	・紀要の投稿規定 ・NII-ELS(学術コンテンツ登録システム)から共用リポジトリへの移行が課題
学位論文	・NDLで過去分電子化(1990年代)が進行中	・学位規則 の記述 第4章 雑則(論文要旨等の公表) 第9条 博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から1年以内に、その論文を印刷公表するものとする。 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/005/gijiroku/010901/s5-8.htm
学術雑誌論文	・科研費は平成21年度以降、研究成果報告書(PDF)の提出義務づけ ・機関リポジトリで公開している場合、アドレスを記入することとなっている→記入状況(次スライド)	・科研費の研究成果報告書の記入例 様式C-19[記入例] 14. 主な発表論文等 論文等の研究成果を機関リポジトリで公開している場合は、論文等にアクセスするためのアドレスを記入すること。 http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/16_rule/data/23_dl/c-19_chui.pdf ・1,000機関以上¹⁾のシステム環境／運用体制の整備が必要 ・著作権処理をサポートする基盤的システムの整備が必要

(注)

1) 科研費取得機関におけるリポジトリ設置率(2008年)

- ・大学・短大・高専・大学共同利用機関＝15%(907機関中135機関)
- ・財団法人・国の設置する研究所・民間＝1%(247機関中2機関)

科研費研究成果報告書での発表論文の記入状況

事 項		2008年		2009年	
		全機関	東京大学 ¹⁾	全機関	東京大学 ¹⁾
①	研究成果報告書	16,164	776	10,869	679
②	①のうち、発表論文等に雑誌論文の記載がある報告書	13,868	694	9,408	605
③	②で記載のある雑誌論文の総合計	93,613	6,127	65,946	5,971
④	③の雑誌論文のうち、機関リポジトリ等のアドレスの記入がある件数 ²⁾	949	55	420	29
⑤	④のうち、本文リンクが有効な件数 ³⁾	565	34	262	12

(NII KAKENデータベースからの抽出件数)

(注)

- 1) 研究機関が「東京大学」である研究課題の成果報告書を抽出した件数
- 2) 雑誌論文にURL(<http://>～)もしくはDOIの記入があるものを抽出した件数
- 3) 上記のアドレスがリンク切れ(タイムアウト)でないことを機械的に確認した件数

JAIRO/IRDBにおけるDOI付与率の推移

- DOI(デジタルオブジェクト識別子)が付与されている「学術雑誌論文」の割合は、相対的には少ない

項目	2009年	2010年	2011年	2012年
DOI入力件数	20,080	29,419	34,424	42,896

※各年5月時点の数値(JAIRO/IRDBより)

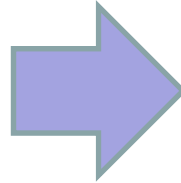
4. まとめと今後の方向性

□ 量的な展開

- 機関数の増加を短期間に達成
- コンテンツ数も順調に増加

□ 質的な向上

- 利用者からの評価の獲得
- 利用統計の分析とフィードバック
- コンテンツ収集戦略
 - ・ 紀要
 - ・ 電子出版
- ニーズの発掘



□ コミュニティの活性化

- 研究者へのアプローチ
- 大学経営層へのアプローチ
- 何よりも、図書館からのサポート

□ JAIRO Cloudによるさらなる普及・拡大

- 成功例の移転
- 共通サービスやDBの継続的整備
- コミュニティの形成

□ 大学を越えた連携活動の強化と持続

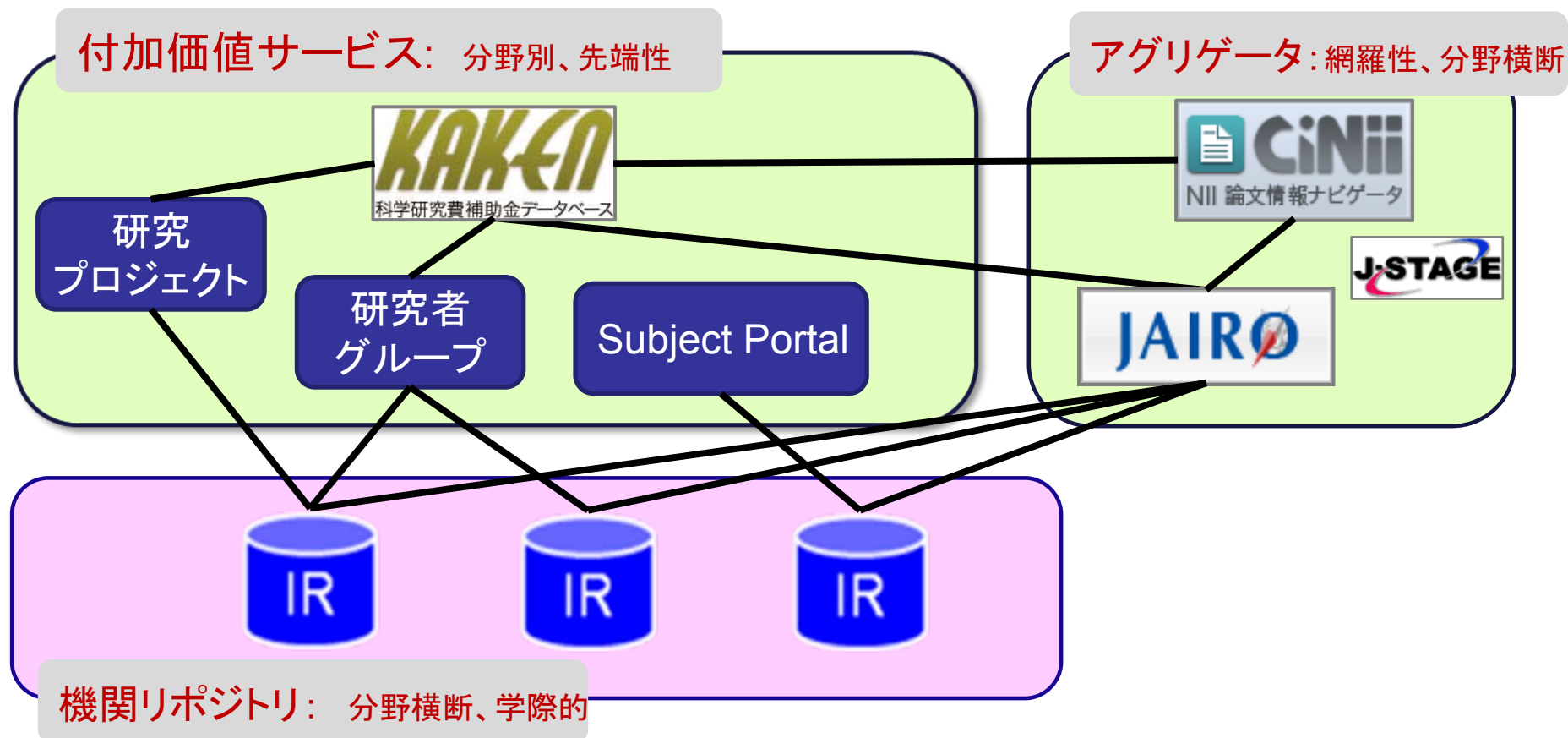
- 人材育成
- 国際連携

□ 連携・推進協力会議への期待

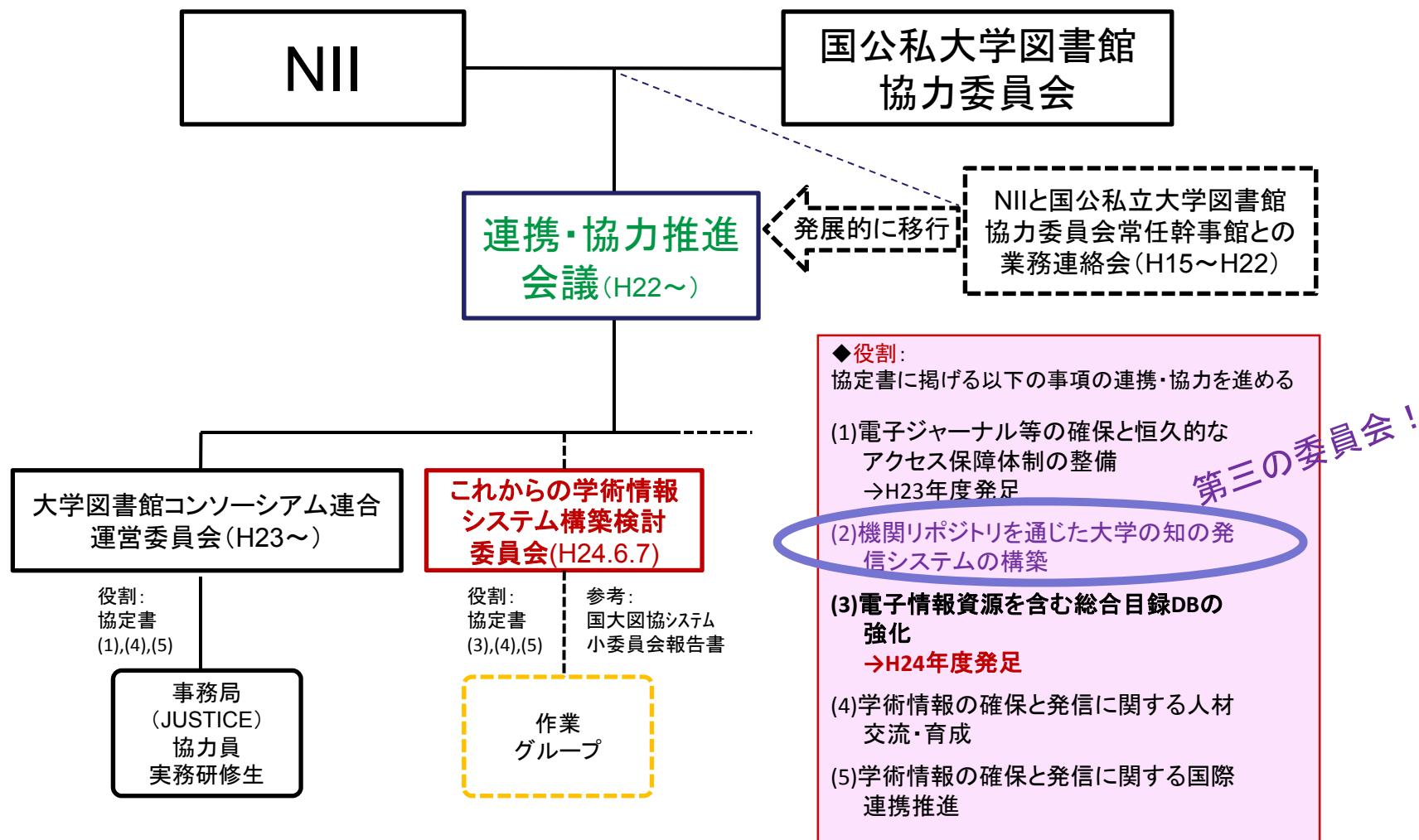
機関リポジトリの立ち位置

□ 揺籃期を脱して実運用フェーズへ

- 使いやすく高品質のサービス
- 多様な情報サービスの基盤となるコンテンツの提供

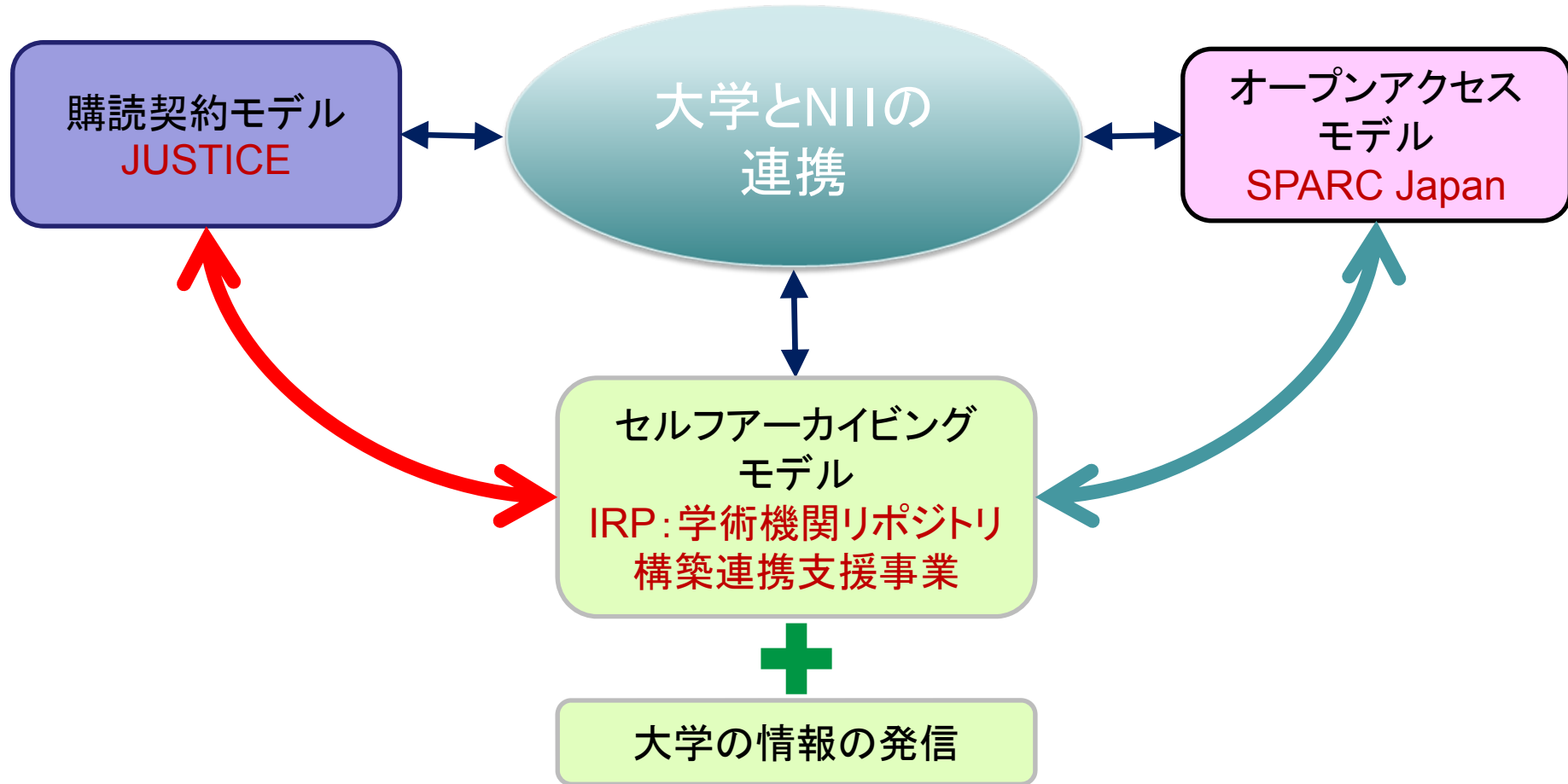


大学との連携体制の新たな展開



学術情報発信・流通の新たな形

セーフティネットの確立のためにも
オープンアクセスの推進が重要



ご静聴、どうもありがとうございました。